

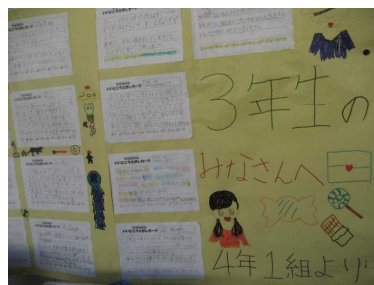


多くの友だちの名前を覚え、名前を呼ぶ

H29. 11. 30 住小：坂井

当然できていなくてはならないことと知りながら、私自身いまだ努力中のことの一つは、子どもたちの名前を覚えることです。ときどき、廊下などですれ違う子の名前を呼んだときに、「違います。私の名前は〇〇です」と、その子をがっかりさせてしまうことがあります。逆に、通学時に「〇〇さん、横断歩道は手を挙げて渡ろうね」と声をかけると、「私の名前どうして知っているの」と、ニコニコ顔で驚かれることもあります。

学校では、生活委員会や学年・学級単位であいさつ運動に取り組んでいます。その様子を見ると、高学年と低学年の子が互いに名前を呼び合い、手を取り合う姿を見かけることがあります。聞いてみると、近所の友だちであったり、「スマイル縦割り班」の友だちということが多いです。当然のことながら、名前を呼び合うことは、一緒に過ごす時間があることと連動しています。住吉小学校では、子どもたちの社会性育成の観点から、年間を通して縦割り班で活動することを計画的に位置付けています。縦割り班での楽しい活動や清掃がその一つです。また、当校では「きょうだい学年」があり、学習発表後の感想（「いいところさがし」）を互いに伝え合うなどしています。1例を紹介します。「〇〇さん（6年男子）は、くみたいそうですごくかっこよかったです。かんどうしました。」（1-1〇〇より）



きょうだい学年からのメッセージ

ご家庭でも、お子さんから同級生の名前だけではなく、他学年の児童の名前が出ることもあるかと思います。保護者の皆様からも、お子さんにスマイル縦割り班の様子などを聞いていただけるとありがたいです。また、学校や地域の様々な場で保護者の皆様からもお子さんの友だちに声をかけていただけることも、社会性育成にとって大切なことでありステキなことだと思います。PTAの様々な活動は、そのことを実現するための役割も担っています。また、「スーちゃんの本屋さん」（住小図書ボランティア）では、クリスマスの飾り付けのお手伝いを募集しています。保護者の皆様同士、名前を呼び合える人が増えることを願っています。



昨年度のカーニバルの様子

「愛情の対極にあるものは無関心」（マザー・テレサ）という言葉聞いたことがあります。名前を呼ぶことは、関心を行うで表すことのスタート。私の場合は、名前を覚えては忘れ（がっかりし）、また呼んで覚えることの毎日です。是非大勢の大人が、大勢の子どもたちと付き合っていきたいと思います。来週はスマイルカーニバル。子どもたちがとても楽しみにしていて、多くの子が名前を呼び合う活動になりそうです。